

9.8.2 予測

(1) 工事の実施及び施設の存在に伴う動物への影響

1) 予測内容

建設機械の稼働、資材運搬等の車両の走行、造成等の工事の実施及び施設の存在に伴う保全すべき種の生息地の改変の程度及びその他の生息環境への影響の程度を予測した。

2) 予測地域・地点

予測地域は、現地調査における調査範囲と同様の範囲とした。

予測地点は、予測地域全域とした。

なお、対象事業実施区域内における造成工事の範囲（改変される範囲）は、図 9.8-9 に示すとおりである。

3) 予測対象時期等

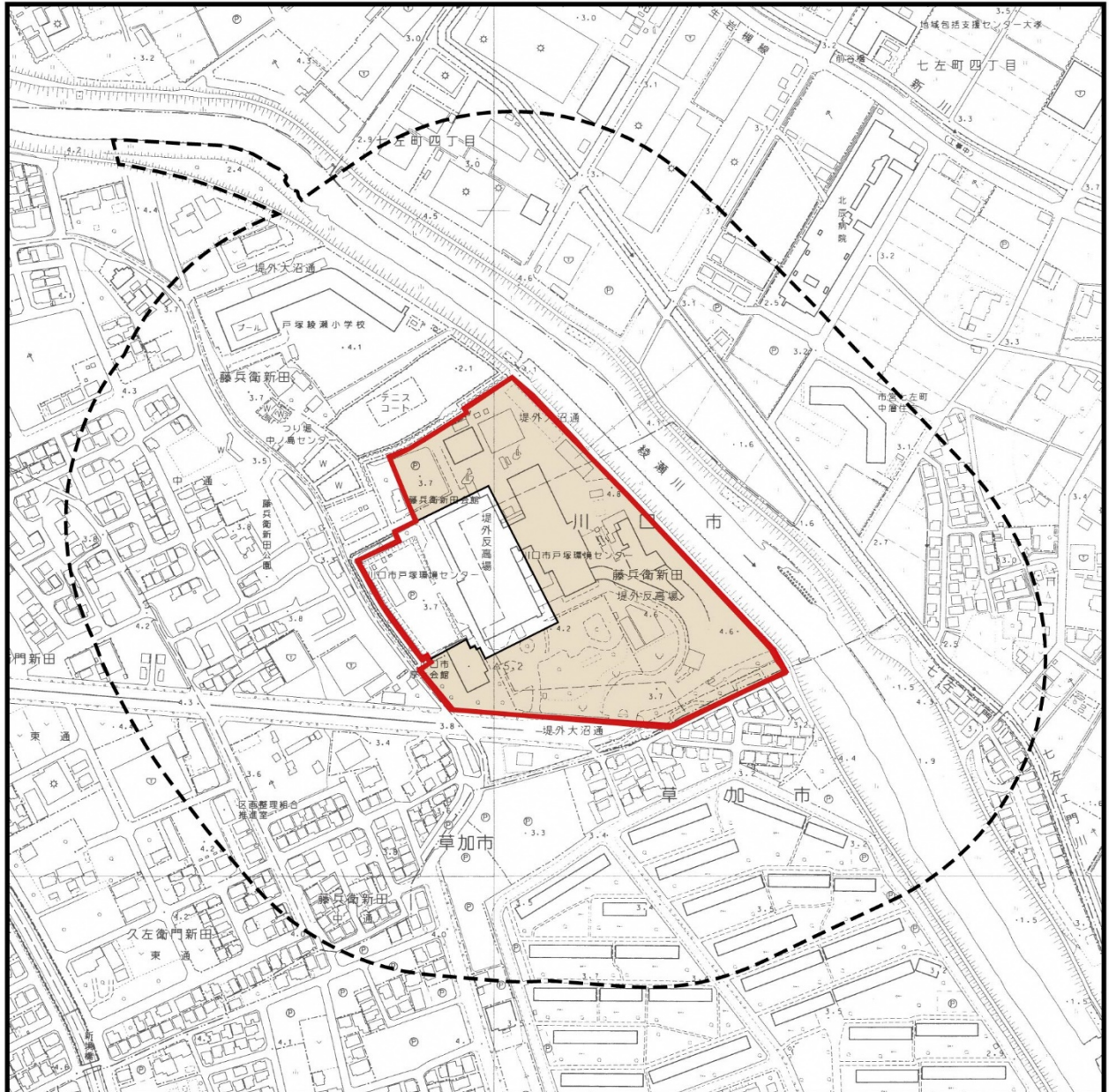
工事中については、保全すべき種への影響が最大と考えられる時期として、造成工事の範囲が最大となる時期とした。

存在・供用時については、保全すべき種への影響を的確に把握できる時期として、新施設の供用時の周辺環境が安定した時期とした。

4) 予測方法

工事中については、本工事計画に基づき保全すべき種の生息環境の変化の程度を把握したうえで、類似事例または既存知見を参考にして定性的に予測した。

存在・供用時については、本事業計画に基づき植生及び地形の改変内容と保全すべき種の生息確認位置との重ね合わせ等により定量的に予測した。



- : 対象事業実施区域
- : 予測地域
- : 造成工事の範囲

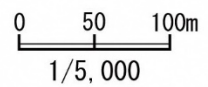


図 9.8-9 予測地域及び造成工事の範囲

5) 予測条件

ア 工事中の環境保全計画

建設機械の稼働及び資材運搬等の車両の走行に関連する騒音・振動対策、水質汚濁防止対策等の工事中の環境保全計画は前掲「第2章対象事業の目的及び概要 2.3 対象事業の概要 (5) 工事の概要 3) 工事に係る環境保全計画」に示すとおりである。

イ 存在・供用時の環境保全計画

(ア) 緑化計画

供用後の緑化計画は、前掲「第2章対象事業の目的及び概要 2.3 対象事業の概要 (4) 対象事業で整備する施設の概要 14) 緑化計画」に示すとおりである。

6) 予測結果

ア 動物の生息環境の変化

動物種において、本事業で想定される影響の概要は、表 9.8-25 に示すとおりである。

表 9.8-25 本事業で想定される影響の概要

影響の種類	想定される影響	工事中	存在・供用時	影響要因	影響を受ける生息環境
直接的な影響	生息環境の消失	○	△	(工事中) ・造成等の工事(存在・供用時) ・施設の存在	・工事中は、対象事業実施区域内の動物種の個体の消失や生息環境の面積減少といった直接的な影響が想定される。 ・存在・供用時は、「埼玉県生物多様性の保全に配慮した緑化木選定基準」(平成18年3月)に記載された在来種を中心に植栽され、高木、中・低木を組み合わせ多層構造となるように植樹し、現況と同様の状況になることから、生息環境を代償できると考えられ、影響は小さいと考えられる。
間接的な影響	移動経路の分断	△	/	(工事中) ・資材運搬等の車両の走行	・工事中は、資材運搬等の車両の走行により車両が増加し、移動経路の分断が生じる。なお、工事中の環境保全計画によると、工事車両の走行に関する環境保全対策について徹底することが示されていることから、これらの低減措置の徹底により工事中の影響は小さいものと考えられる。
	騒音・振動	△	/	(工事中) ・建設機械の稼働 ・資材運搬等の車両の走行 ・造成等の工事	・工事中は、建設機械の稼働、資材運搬等の車両の走行により、騒音・振動が発生する。騒音・振動により対象事業実施区域及びその周辺の利用を一時的に忌避する可能性がある。工事中の環境保全計画の騒音振動対策を徹底することで影響が低減され、間接的な影響は小さいと予測される。
	水質の変化	—	/	(工事中) ・造成等の工事	・工事中は濁水が発生するが、仮設沈砂槽等により、土粒子を沈降させ、上澄みを排水する計画である。仮設沈砂槽等を経由した排水の水質(SS)は、綾瀬川の現地調査結果の水質と同程度以下にすることから、「埼玉県条例施行規則の排水基準」を遵守でき、綾瀬川の水質(SS)を悪化させない。また、工事中に発生するアルカリ排水及び有害物質の汚染のおそれある地下水は公共下水道に排水することから、綾瀬川の水質を悪化させない。したがって、間接的な影響はないと考えられる。
	光環境の変化	×	×	(存在・供用時) ・施設の存在	・使用建設機械の稼働時間及び資材運搬等の車両の運行時間は原則として午前7時から午後6時までの時間であることから、夜間の照明による光環境の変化に伴う動物の生息環境への影響はないか、あっても極めて小さいと考えられる。 ・高層建築物の建設予定はなく、対象事業実施区域の敷地境界に緩衝緑地を設けるため、夜間の照明による光環境の変化は少なく、動物の生息環境に影響を及ぼさないか、あっても影響は極めて小さいと考えられる。

注) 表中の凡例

- ：影響が想定される。
- △：影響はあるが、最大となる影響は一時的であり、影響は小さいと考えられる。もしくは、工事計画や事業計画から、影響は小さいと考えられる。
- ×
- ：影響はないと考えられる。

イ 各種の予測結果

保全すべき種の予測結果の概要は表 9.8-26(1)～(2)に、保全すべき種ごとの予測結果は表 9.8-27(1)～(39)に示すとおりである。

表 9.8-26(1) 保全すべき種の予測結果の概要

分類	種名	保全すべき種 選定根拠	確認例数		主な生息環境の面積			影響の 大きさ
			対象事業実施区域		現況 (ha)	消失 (ha)	割合 (%)	
			内	外				
鳥類 (猛禽類含む)	チュウサギ	環境省：NT 埼玉県：NT2/NT2/VU（繁殖）	0	1	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	コサギ	埼玉県：NT2/NT2/NT2（繁殖）	0	3	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	トビ	埼玉県：DD/-/DD（繁殖）	1	1	34.0	3.8	11.2	△
	オオタカ	環境省：NT 埼玉県：VU/VU/VU（繁殖） NT2/VU/VU（越冬）	0	1	9.6	0.9	9.4	△
	チョウゲンボウ	埼玉県：NT2/NT2/NT2（繁殖）	27	30	29.4	2.8	9.5	△
	クイナ	埼玉県：VU/VU/VU（越冬）	0	1	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	バン	埼玉県：NT2/NT2/NT2（繁殖）	0	8	1.7	0	0	△
	オオバン	埼玉県：NT1/NT1/NT1（繁殖）	0	49	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	イソシギ	埼玉県：VU/VU/VU（繁殖）	0	2	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	タシギ	埼玉県：NT2/NT2/RT（越冬）	0	1	1.7	0	0	△
	コアジサシ	環境省：VU 埼玉県：CR/CR/CR（繁殖）	0	2	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	カワセミ	埼玉県：LP/LP/RT（繁殖）	0	10(3) ^{注4)}	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
	ウグイス	埼玉県：-/-/RT（繁殖）	0	1	11.3	1.0	8.8	△
	オオヨシキリ	埼玉県：NT2/NT2/NT2（繁殖）	0	4	0.2	0	0	△
	ホオジロ	埼玉県：NT2/NT2/RT（繁殖）	0	10	9.6	1.0	10.4	△
	アオジ	埼玉県：-/-/DD（繁殖）	0	6	33.3	3.8	12.2	△
	コムクドリ	埼玉県：-/-/DD（繁殖）	0	1	3.8	1.0	26.3	△
	ツミ	埼玉県：NT2/NT2/NT2（繁殖）	1	0	3.8	1.0	26.3	×
	ハイタカ	環境省：NT 埼玉県：-/-/DD（繁殖） VU/VU/NT2（越冬）	1	1	11.3	1.0	8.8	×
	サシバ	環境省：VU 埼玉県：EX/EX/CR（繁殖）	2	6	11.3	1.0	8.8	×
ハヤブサ	環境省：VU 埼玉県：VU/VU/VU（越冬）	2	2	7.5	0	0	△	
爬虫類	カナヘビ	埼玉県：NT2/NT2/RT	2	11	11.3	1.0	8.8	△
	シマヘビ	埼玉県：VU/VU/VU	0	2	7.5	0	0	△
	アオダイショウ	埼玉県：NT1/NT2/NT2	0	2	34.0	3.8	11.2	△
両生類	アズマヒキガエル	埼玉県：NT1/NT1/NT1	1	50	13.6	1.0 ^{注3)}	7.4 ^{注3)}	△
	トウキョウダルマガエル	環境省：NT 埼玉県：VU/NT1/NT1	0	14	4.0	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	△
魚類	ウナギ	環境省：EN 埼玉県：NT2	0	2	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×
	ドジョウ	環境省：NT	0	2	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×
	メダカ	環境省：VU 埼玉県：NT2	0	3	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×

表 9.8-26(2) 保全すべき種の予測結果の概要

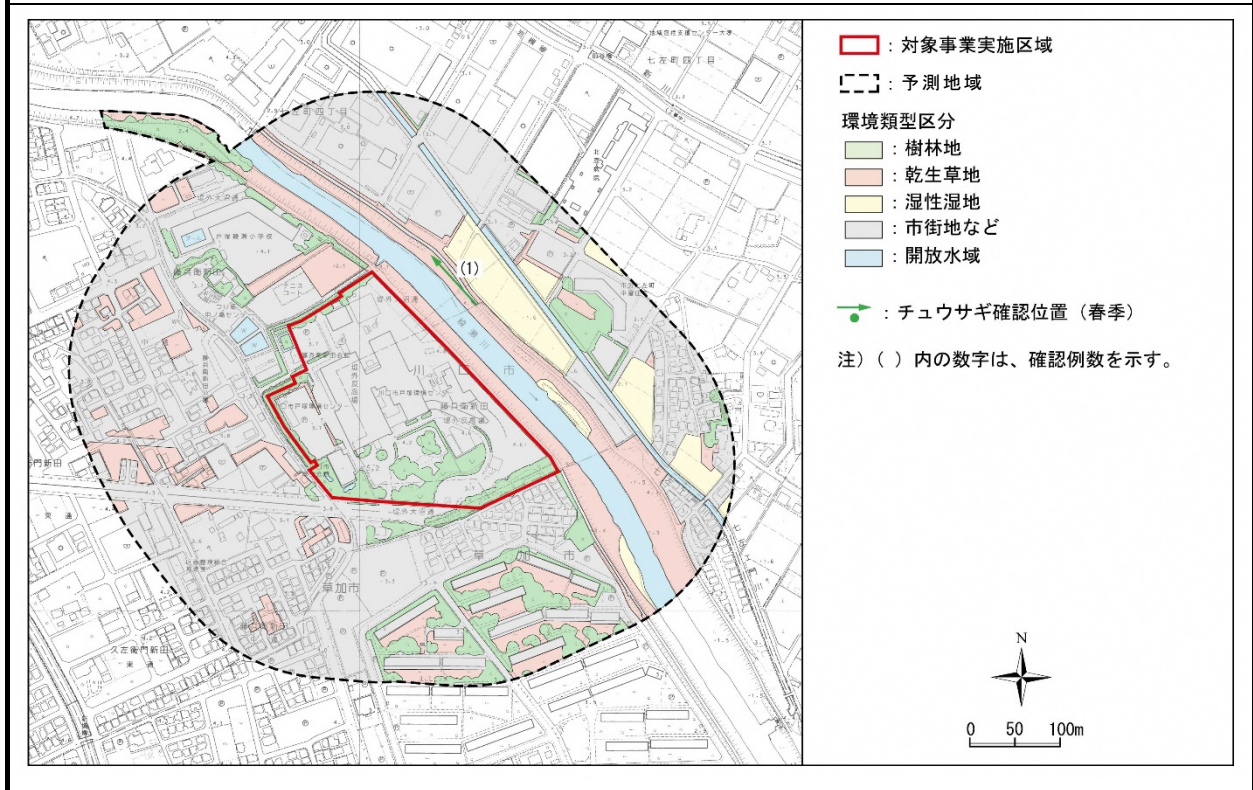
分類	種名	保全すべき種 選定根拠	確認例数		主な生息環境の面積			影響の 大きさ
			対象事業実施区域		現況 (ha)	消失 (ha)	割合 (%)	
			内	外				
底生動物	コシダカヒメモノ アラガイ	環境省：DD	0	1	3.8	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×
	モノアラガイ	環境省：NT 埼玉県：NT2/DD/NT2	0	1	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×
	ヌマガイ	埼玉県：NT2/NT2/NT2	0	3	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×
	ミドリビル	環境省：DD	0	4	2.3	0 ^{注3)}	0 ^{注3)}	×
昆虫類	クマコオロギ	埼玉県：NT1/NT2/NT1	0	24	7.5	0	0	△
	オナガササキリ	埼玉県：VU/NT2/RT	0	1	7.5	0	0	△
	ヒナバッタ	埼玉県：VU/VU/NT1	2	25	5.8	0	0	△
	ショウリョウバッタ タモドキ	埼玉県：NT1/NT2/NT2	1	5	5.8	0	0	△
	ハネナガイナゴ	埼玉県：EN/VU/NT1	0	1	1.7	0	0	△
	モンズズメバチ	環境省：DD	1	5	25.8	3.8	14.7	△

- 注 1) 保全すべき種の選定根拠となる法令・文献及び評価区分は前掲表 9.8-5 のとおりである。
 2) 保全すべき種の選定根拠のうち、埼玉県の評価区分については、大宮台地/中川・加須低地/全県の順で記載している。
 3) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。
 4) 括弧内の数値は営巣箇所数を示す。
 5) 表中の凡例
 ○：影響が想定される。
 △：影響はあるが、最大となる影響は一時的であり、影響は小さいと考えられる。もしくは、工事計画や事業計画から、影響は小さいと考えられる。
 ×：本事業では影響は限定的であり、影響は極めて小さいと考えられる。
 ー：影響はないと考えられる。

表 9.8-27(1) 保全すべき種の予測結果 (チュウサギ)

項目	内容					
主な生息環境	水田、河川、沼地、干潟等の水辺に棲む。					
	予測地域 (ha)	3.8	変更区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する 消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川上空を飛行する1例が確認された。					
	対象事業 実施区域内	0例	対象事業 実施区域外	1例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で1例が確認された。採餌や繁殖を示す行動はみられなかったこと、本種の主な生息環境は、水田、河川、沼地、干潟等の水辺であることから、対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用している可能性が考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、変更区域内に本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減される。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられる。したがって、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置

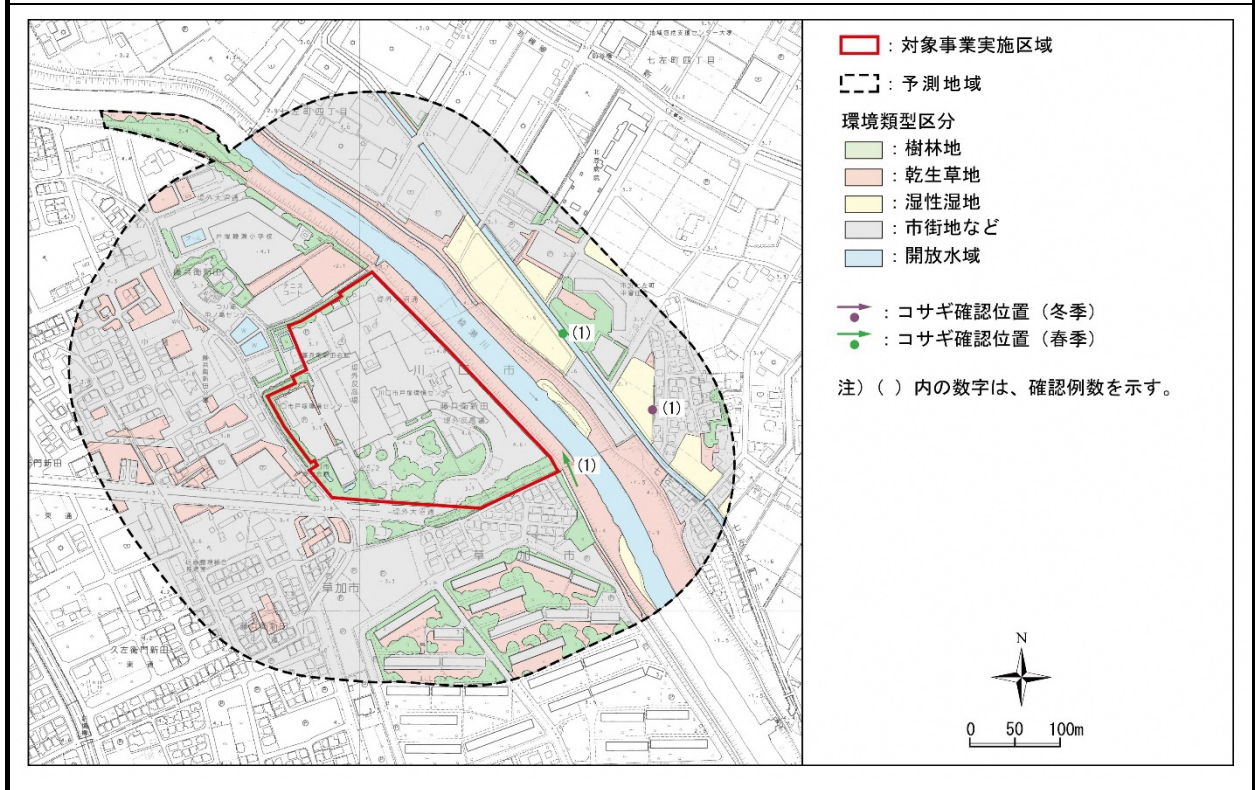


注) 変更区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、変更区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(2) 保全すべき種の予測結果 (コサギ)

項目	内容				
主な生息環境	水田、河川、湖沼、干潟、湿地で見られ主に小魚を捕る。				
	予測地域 (ha)	3.8	変更区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の水田横の水路で 1 例、対象事業実施区域外の綾瀬川付近を飛行する 1 例、綾瀬川東側の水路内で 1 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	3 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 3 例が確認された。採餌や繁殖を示す行動はみられなかったこと、本種の主な生息環境は、水田、河川、湖沼、干潟、湿地であることから、対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用している可能性が考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、変更区域内に本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減される。また、本種は移動能力が大きいいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられる。したがって、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的変化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置



注) 変更区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、変更区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(3) 保全すべき種の予測結果（トビ）

項目	内容					
主な生息環境	平地から高山にかけて市街地、海岸、湖沼等の幅広い場所で見られる。					
	予測地域 (ha)	34.0	改変区域内 (ha)	3.8	予測地域に対する 消失の割合 (%)	11.2
現地確認状況	対象事業実施区域内及び実施区域外の上空を飛行する 1 例が確認された。					
	対象事業 実施区域内	1 例	対象事業 実施区域外	1 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域及びその周辺の上空で飛翔が 1 例確認された。採餌や繁殖を示す行動はみられなかったことから、本種は対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用している可能性が考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境の一部が消失するが（3.8ha）、そのほとんどが市街地であり（2.8ha）、採餌環境となりうる草地等の改変はない。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられる。また、本種は移動能力が大きいいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられる。したがって、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できるとともに、現在と同様の状況が維持されることで生息環境を代償できると考えられることから、供用時における影響は小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境（採餌環境を含む）の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置

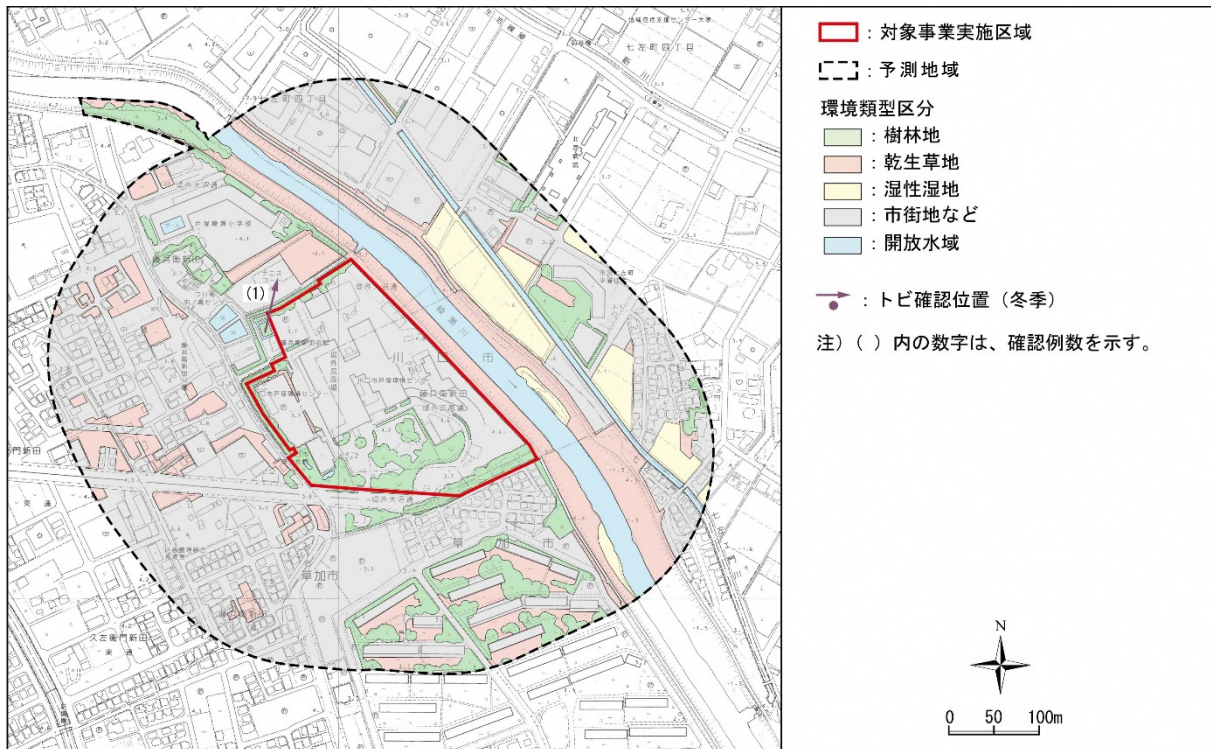


表 9.8-27(4) 保全すべき種の予測結果（オオタカ）

項目	内容				
主な生息環境	平地から山地の林や農耕地などに生息する。現在は市街地のさほど大きくない林で営巣するものもいる。				
	予測地域 (ha)	9.6	改変区域内 (ha)	0.9	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の側上空で、ハンティングを行う幼鳥 1 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	1 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外の草地でハンティングが 1 例確認された。採餌行動が確認されたことから、本種は対象事業実施区域周辺を生息環境の一部として利用し、草地等を採餌環境としている可能性が考えられる。</p> <p>造成工事により生息環境である樹林地の一部が一時消失するが、緑地整備の実施により、供用時には現在と同様の状況が維持され、生息環境を代償できることから影響は小さいと考えられる。また、造成工事及び施設の存在により採餌環境である草地等の改変はない。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられる。また、本種は移動能力が大きいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境（採餌環境を含む）の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置

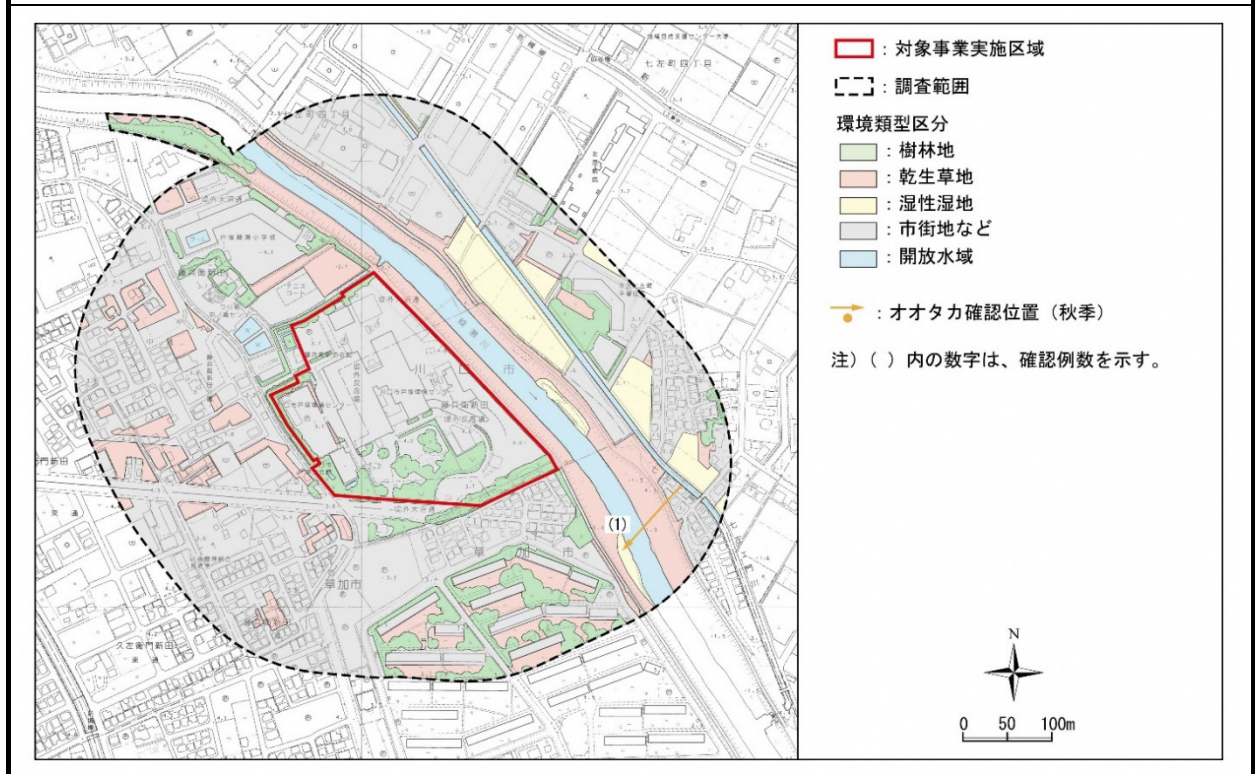
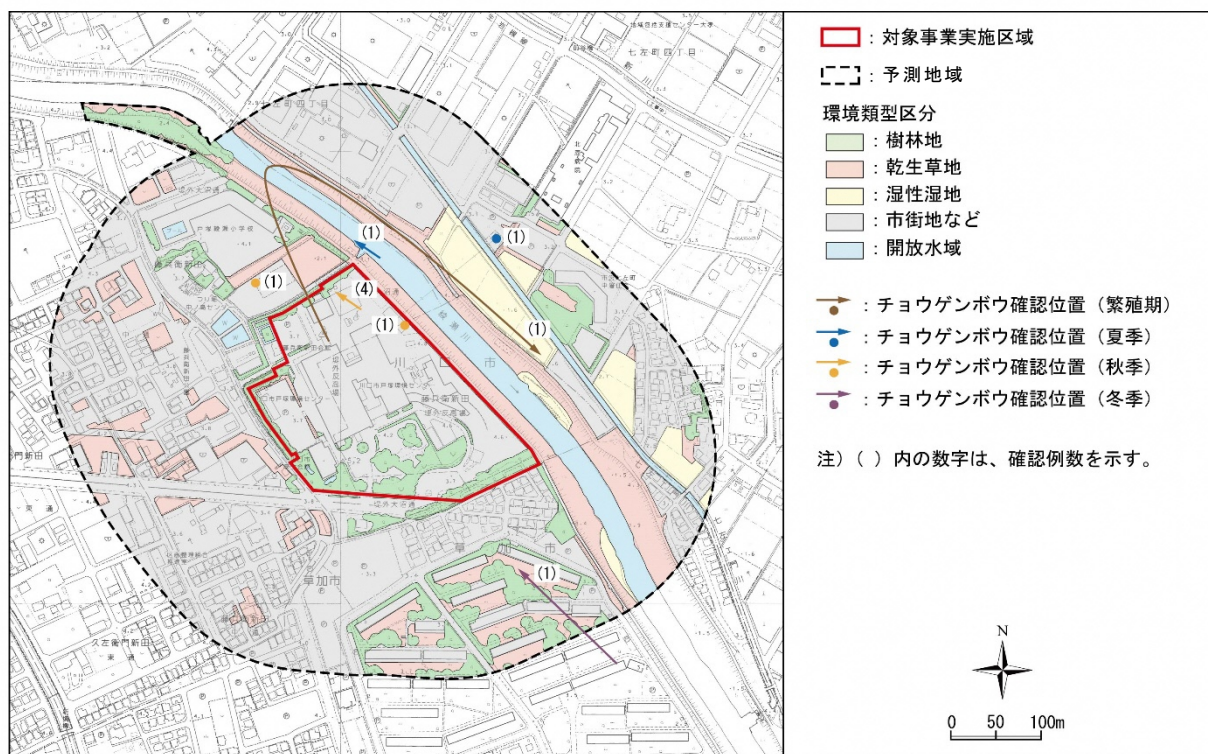


表 9.8-27(5) 保全すべき種の予測結果 (チョウゲンボウ)

項目	内容				
主な生息環境	<p>本来の営巣地は絶壁等のくぼみである。採食環境として原野や草地等の開けた場所を好む。埼玉県内では、1980年代頃より、低地帯の高架橋や取水塔のような人工建造物に営巣するようになり、市街地でもよく見られるようになった。</p>				
	予測地域 (ha)	29.4	変更区域内 (ha)	2.8	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	<p>対象事業実施区域内では、戸塚環境センター屋上で交尾や爪合わせディスプレイ等が確認されたが、戸塚環境センターやその近傍において営巣は確認されなかった。また、対象事業実施区域北側のテニスコートや綾瀬川周辺の農地においてハンティングが確認された。</p>				
	対象事業実施区域内	27例	対象事業実施区域外	30例	
予測結果	<p>戸塚環境センターやその近傍において営巣は確認されなかったが、対象事業実施区域内で交尾や爪合わせディスプレイ等が確認された。また、対象事業実施区域北側のテニスコートや綾瀬川周辺の農地においてハンティングが確認された。本種の確認状況から、対象事業実施区域及び周辺を営巣環境や採餌環境の一部として利用している可能性が考えられる。</p> <p>造成工事により営巣環境の一部が一時消失するが、対象事業実施区域内で営巣が確認されなかったこと、対象事業実施区域周辺には営巣環境となりうる人工構造物が存在することから、予測地域における営巣環境への影響は小さいと考えられる。また、造成工事及び施設の存在により採餌環境である草地等の改変はない。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化といった生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されると考えられる。また、本種は移動能力が大きいいため、一時的に対象事業実施区域周辺へ逃避するとも考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できるとともに、現在と同様の生息環境が確保されることで生息環境を代償できると考えられることから、供用時における影響は小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境（採餌環境を含む）の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置

【鳥類調査】



【猛禽類調査】

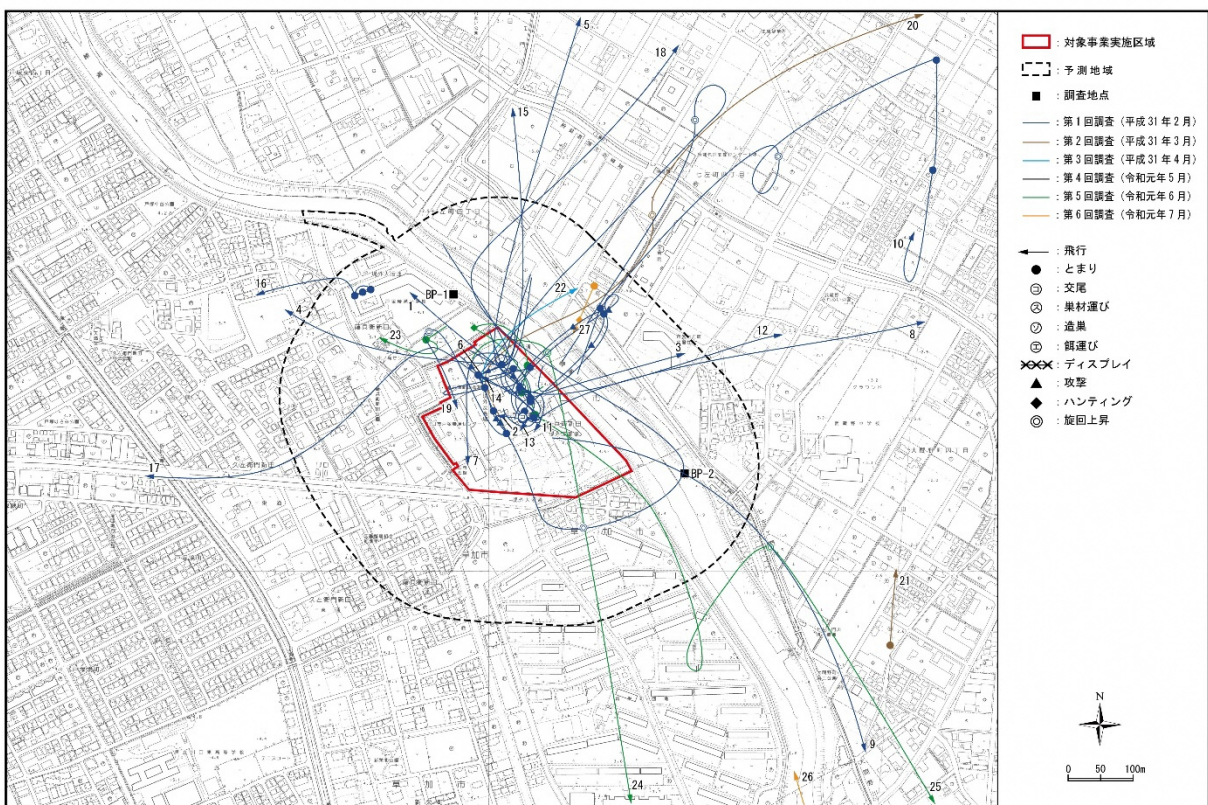
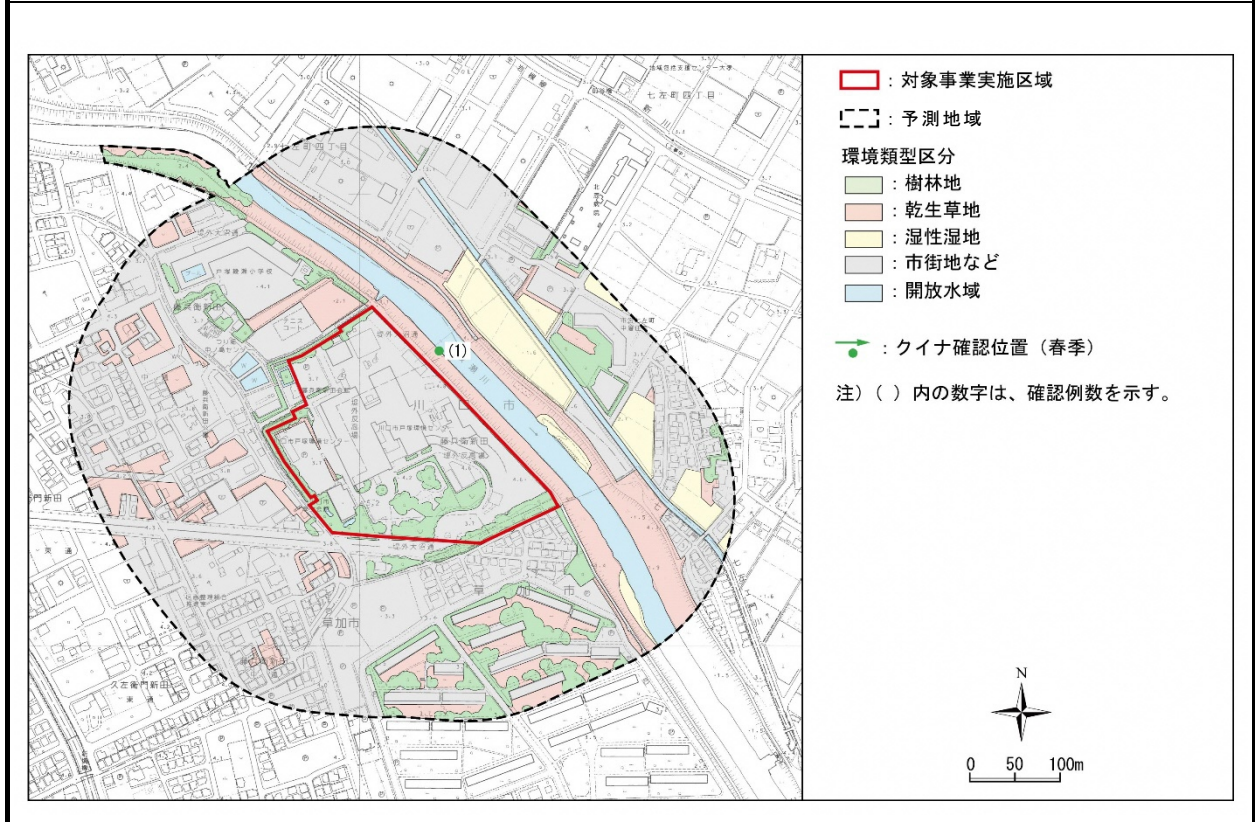


表 9.8-27(6) 保全すべき種の予測結果 (クイナ)

項目	内容					
主な生息環境	湖沼や河畔などの水辺や湿地に生息する。					
	予測地域 (ha)	3.8	変更区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する 消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川の川岸で1例が確認された。					
	対象事業 実施区域内	0例	対象事業 実施区域外	1例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で1例が確認された。本種の主な生息環境は、湖沼や河畔等の水辺や湿地であり、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、対象事業実施区域周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、変更区域内に本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置

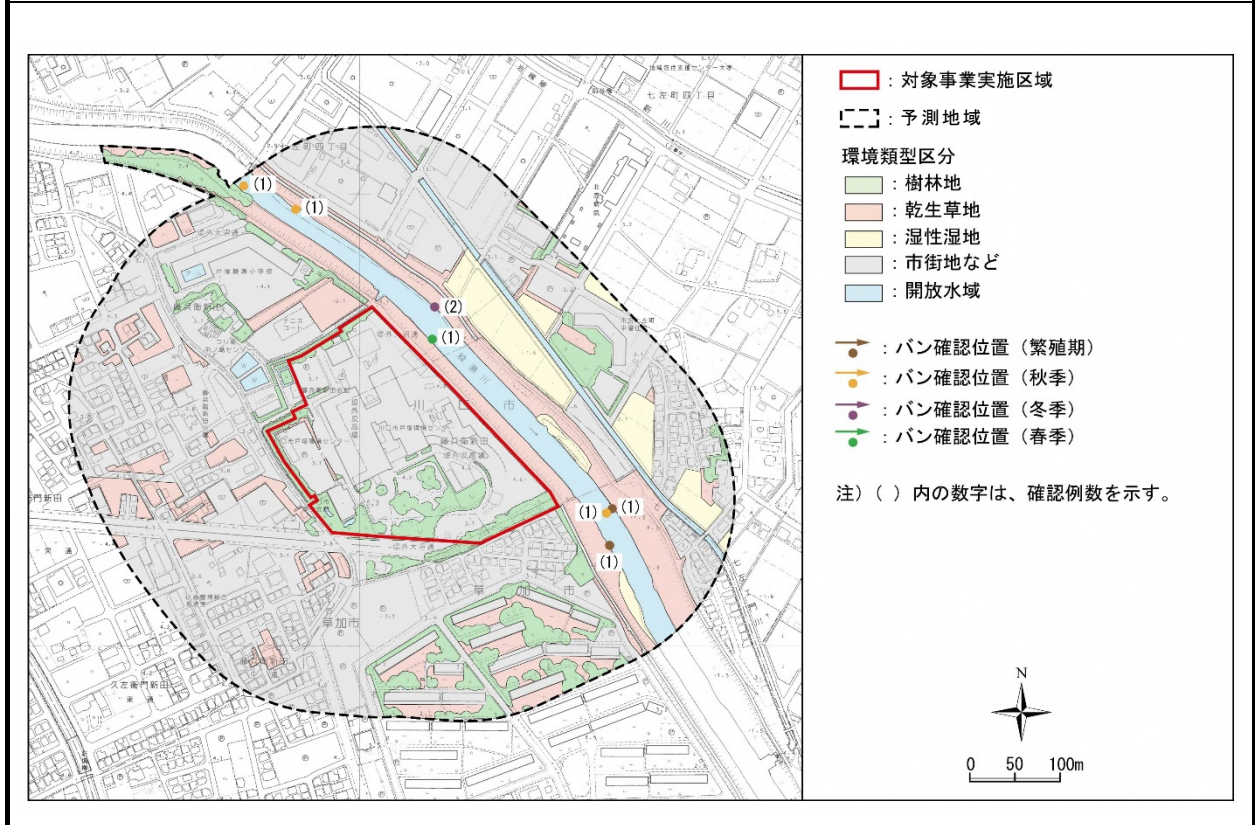


注) 変更区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、変更区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(7) 保全すべき種の予測結果 (バン)

項目	内容				
主な生息環境	河川、休耕田、池沼などのヨシ原に生息する。				
	予測地域 (ha)	1.7	改変区域内 (ha)	0	予測地域に対する消失の割合 (%)
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川で計 8 例が確認された。				
	対象事業実施区域内	0 例	対象事業実施区域外	8 例	
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 8 例が確認された。本種の子な生息環境は、河川、休耕田、池沼等のヨシ原であり、対象事業実施区域内では確認されなかつたことから、対象事業実施区域周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>改変区域内に本種の生息環境となるヨシ原等は存在しないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はない。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的变化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的变化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>				

確認位置

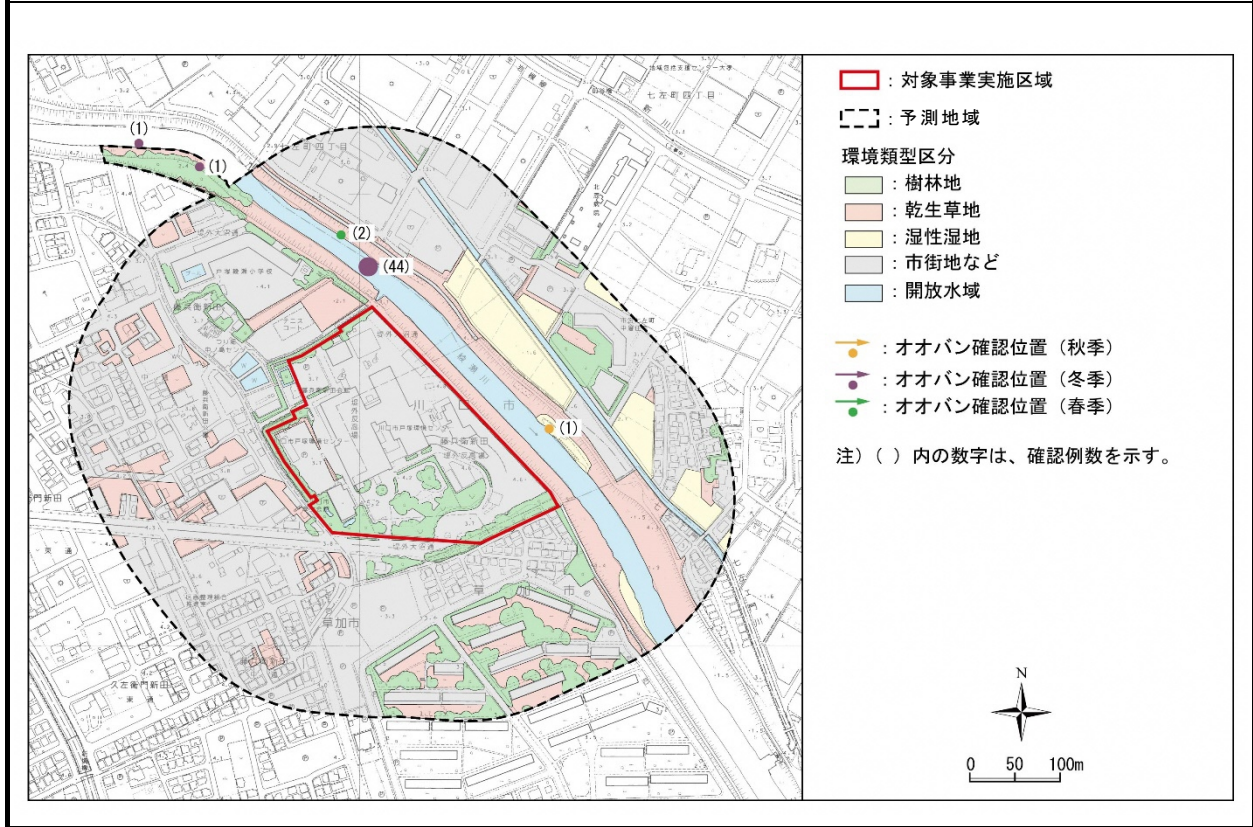


注) 改変区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、改変区域内の生息環境から除外した。

表 9.8-27(8) 保全すべき種の予測結果（オオバン）

項目	内容					
主な生息環境	湿性植物がよく茂る河川や湖沼に生息するが、広い水面のある環境を好む。					
	予測地域 (ha)	2.3	変更区域内 (ha)	0 ^{注)}	予測地域に対する 消失の割合 (%)	0 ^{注)}
現地確認状況	対象事業実施区域外の綾瀬川や綾瀬の森で計 49 例が確認された。					
	対象事業 実施区域内	0 例	対象事業 実施区域外	49 例		
予測結果	<p>対象事業実施区域外で 49 例が確認された。本種の主な生息環境は、湿性植物がよく茂る河川や湖沼であり、対象事業実施区域内では確認されなかったことから、対象事業実施区域周辺を生息環境としている可能性が考えられる。</p> <p>対象事業実施区域内の開放水域は人工的な庭園であり、変更区域内に本種の生息環境はないことから、事業の実施に伴う生息環境の改変等の影響はないと考えられる。</p> <p>工事中は、騒音・振動及び光環境の変化による生息環境の質的変化が生じる可能性があるが、使用建設機械の配慮及び資材運搬等の車両の運行管理により間接的影響は低減されることから、工事中における間接的影響は小さいと考えられる。なお、濁水による生息環境の質的変化は生じないと考えられる。</p> <p>供用時には、対象事業実施区域内の緑地整備の実施により、照明による植物の生育環境への影響を低減できることから、供用時における間接的影響は極めて小さいと考えられる。</p> <p>したがって、予測地域における本種の生息環境の改変による影響、及び生息環境への間接的影響は小さいと考えられる。</p>					

確認位置



注) 変更区域内の開放水域は人工的な庭園であり、本種の生息環境ではないため、変更区域内の生息環境から除外した。